

目次 Contents

シリーズ総監修・編集顧問・監修・編集長・副編集長 一覧	iii
執筆者一覧	iv
緒言 産業保健ストラテジーシリーズ第3版の発刊にあたって… 東 敏昭	vi
第3版 はじめに	viii

第1章 産業医体系の理解

1.1 産業保健の目的	山本 誠	2
1.1.1 産業保健の目的		2
1.1.2 何を行うのか?		4
1.1.3 どう行うのか?		6
1.1.4 産業保健の目的を意識した産業保健活動を		9
1.2 日本と世界の産業医制度	山本 真二	10
1.2.1 はじめに		10
1.2.2 産業医制度の変遷とその背景		10
1.2.3 日本の産業医制度の特徴		16
1.2.4 諸外国の産業医制度の特徴		17
1.3 産業医の立場	石川 浩二	26
1.3.1 産業医の倫理		26
1.3.2 産業医の立場		27
1.3.3 産業医の独立性		28
1.3.4 産業医の公正性		29
1.3.5 産業医の分類と種類		30
1.3.6 産業医に求められる資質と姿勢、行動		33
1.4 産業医の専門性とキャリア形成	梶木 繁之	37
1.4.1 産業医のコンピタンスとは		37
1.4.2 産業医活動の目的と専門性		38

1.4.3	産業医の資格と求められるコンピタンス	38
1.4.4	産業医の管理的コンピタンス	38
1.4.5	グローバル企業の産業医に求められるコンピタンス	41
1.4.6	専門産業医になるまでの学習機会とキャリア形成	43
1.4.7	コンピタンスを身につけるために	44
1.4.8	自律した産業医	45

第2章 法制度の活用

2.1	労働衛生に係る法的な仕組み	朝長 健太	50
2.1.1	法規の枠組み		50
2.1.2	労働衛生に関連する法律		52
2.1.3	労働衛生に関わる行政支援など		55
2.1.4	産業医に関係する最高裁判所判例		58
2.1.5	産業医業務と法令との関わり		60
2.2	安全配慮義務	五十嵐 侑	63
2.2.1	はじめに		63
2.2.2	安全配慮義務 総論		63
2.2.3	産業保健活動と安全配慮義務		67
2.2.4	安全配慮義務をストラテジックに考える		67
2.2.5	安全配慮義務 各論		69
2.3	産業医にとっての労災認定制度	森本 英樹	73
2.3.1	労働者災害補償保険法とその関連法律について		73
2.3.2	労災保険について		73
2.3.3	産業医活動を実施するうえで労災を疑う事例に遭遇した場合		74
2.3.4	労働災害と裁判について		80
2.3.5	その他の事項について		82
2.3.6	おわりに		82
2.4	働き方改革と産業医	宮崎 洋介	83
2.4.1	はじめに		83
2.4.2	働き方改革		83

2.4.3	労働時間制度の見直し	85
2.4.4	働き方改革に係る産業医・産業保健機能の強化	88
2.4.5	長時間労働者に対する医師による面接指導	91
2.4.6	長時間労働現場における産業医の関与	93
2.4.7	医師の働き方改革	94
2.5	情報管理とプライバシー確保	永野 千景 99
2.5.1	産業保健活動と個人情報	99
2.5.2	労働安全衛生法に基づく健康情報の取扱い	99
2.5.3	産業保健活動における個人情報管理の実際	103
事例1	情報の開示について、本人同意を得られないが、生命保護のために就業配慮が必要と考える事例	108

第3章 産業医活動の戦略

3.1	産業保健体制の構築	真鍋 憲幸 116
3.1.1	はじめに	116
3.1.2	産業保健活動におけるコンプライアンス	118
3.1.3	産業保健におけるリスクマネジメント	121
3.1.4	産業保健体制におけるガバナンス	123
3.1.5	まとめ	126
3.2	産業保健活動の戦略的立案	岡原 伸太郎 127
3.2.1	はじめに	127
3.2.2	活動の立案に理念や目的、戦略がなぜ必要か	127
3.2.3	戦略的な活動の立案手順について	129
3.2.4	事例紹介	135
3.3	労働安全衛生マネジメントシステムの展開	小田上 公法 138
3.3.1	労働安全衛生マネジメントシステム（OSHMS）とは	138
3.3.2	OSHMS の歴史	138
3.3.3	JIS Q 45001 と JIS Q 45100	139
3.3.4	OSHMS の骨格（構成要素）	139
3.3.5	OSHMS を活用した産業保健活動の運用	144

3.3.6	OSHMS の導入によって期待される効果	147
3.3.7	産業医に期待される役割	148
3.4	産業保健活動における評価	永田 智久 149
3.4.1	産業保健活動における評価	149
3.4.2	産業保健活動のニーズの把握	149
3.4.3	産業保健活動の継続的改善	152
3.4.4	健康影響の評価	154
3.4.5	経営者との対話	155
3.4.6	産業保健活動の説明責任	156
3.4.7	社外からの評価	157
3.4.8	まとめ	157
3.5	エビデンス（根拠）に基づいた産業医活動	守田 祐作 160
3.5.1	はじめに	160
3.5.2	なぜ産業医活動にエビデンス（根拠）が必要なのか	160
3.5.3	エビデンスを使いこなすための訓練	162
3.5.4	エビデンスに基づいた産業医活動の実践例	167
3.5.5	事業所内で研究を行う	170
3.5.6	まとめ（にかえて）	171
3.6	ウェルビーイングの視点	
	～健康志向と経営志向の統合～	172
3.6.1	ウェルビーイングの歴史	川瀬 洋平 172
3.6.2	ウェルビーイングと企業経営	小島 玲子 174
3.6.3	活動事例	176
事例 2	社員の主体性を活かしたウェルビーイングの取組み	小口 まほこ、日比野 浩之 176
事例 3	経営層に対する取組み：レジリエンスプログラム	森實 修平、宮島 佑一、田中 宣仁 178
事例 4	職場のウェルビーイング推進：指標を活用した組織開発の取組み	中村 佐紀 180

第4章 産業医活動の実践

4.1	メンタルヘルスに関する取組み ……………	井上 嶺子	186
4.1.1	メンタルヘルスに関する取組みの重要性		186
4.1.2	メンタルヘルスに関する行政の動向		186
4.1.3	取組みの検討にあたって確認したいポイント		189
4.1.4	課題の整理と取組みを進める体制の立ち上げ		190
4.1.5	対策の優先順位の検討		191
4.1.6	個別対応		193
4.1.7	組織対応		194
4.1.8	ポジティブメンタルヘルスの視点でのアプローチ		196
4.1.9	取組みの全体像と継続的で計画的な取組みの推進		197
4.1.10	おわりに		199
4.2	ヘルスプロモーションの進め方 ……………	高木 絵里子	200
4.2.1	はじめに		200
4.2.2	ヘルスプロモーション		200
4.2.3	近年の指針改正のポイント		202
4.2.4	ヘルスプロモーションの戦略的企画		204
4.2.5	健康保持増進活動の事例		209
4.2.6	まとめ		211
4.3	快適職場づくり ……………	中尾 智	212
4.3.1	快適職場とは		212
4.3.2	快適職場づくりにおける産業医の役割		214
4.3.3	快適職場づくりの進め方		217
4.3.4	快適職場づくりの取組み事例		221
4.3.5	おわりに		222
4.4	高齢労働社会とエイジマネジメント ……………	横田 直行	223
4.4.1	高齢労働社会とエイジマネジメント		223
4.4.2	高齢労働社会		223
4.4.3	高年齢労働者と労働災害		225
4.4.4	高年齢労働者の特性に応じた健康課題とその対応		227

4.4.5	エイジマネジメント	231
4.4.6	暦年齢からの脱却	233
4.5	多様化する雇用形態への対応	道井 聡史 235
4.5.1	はじめに	235
4.5.2	日本型雇用形態の変化	235
4.5.3	雇用形態と産業保健上の課題	236
4.5.4	産業保健活動の運用と実践	241
4.6	ダイバーシティの関わり	大津 真弓 244
4.6.1	ダイバーシティの歴史	244
4.6.2	ダイバーシティに関わる産業保健の貢献・総論	246
4.6.3	ダイバーシティに関わる産業保健の貢献・各論	248
4.6.4	まとめ	255
4.7	職場における感染症対策	清水 少一 256
4.7.1	職場における感染症対策の重要性と考え方	256
4.7.2	産業医に必要な感染症の知識	257
4.7.3	職場における感染症対策の実際	259
4.7.4	法令への対応	265
4.8	海外健康管理	内野 文吾 268
4.8.1	はじめに：海外健康管理のストラテジー ～コロナ禍が海外勤務にもたらしたもの～	268
4.8.2	海外派遣の法的背景とリスク管理	268
4.8.3	海外健康管理の実務	270
	略語一覧	287
	索引	291
	第2版 緒言	304
	第2版 はじめに	306
	産業保健ストラテジーシリーズ～理念～	308

注) 本書では**キーワード**を青色文字、重要箇所を太字で示しています。